



宗祖法然上人 800回大遠忌 通信 号外IV

2009年(平成21年)10月



法然上人の行跡を顕彰し
その功績を偲びませんか

法然上人を歩く旅
(二七〇キロのウォークラリー)

法然上人がお生まれになったのは現在の岡山県です。この生誕の地から京都比叡山までの約二七〇キロを十五回にわけて歩くものです。
今まで十一回を数え、歩いた距離は二百九・三キロ。次回は十二月十三日(日)に宝塚線北伊丹駅から京都線高槻駅までの二十一・五キロを歩きます。

※詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

法然上人へ絵手紙を
書いてみませんか

法然上人に手紙を出すという仮想の中で、自分の想い、願い、夢などを絵手紙で表現していただこうというものです。

応募期間(第三回)

平成二十一年十月〜十二月末

応募規定

葉書大に絵手紙を書き封書で郵送(個人情報保護のため)
絵にはひと言添えてください。

応募資格 不問

※応募作品の著作権は主催者に帰属。

法然上人最後の教え
「一枚起請文」を
なぞり書きしてみませんか

管長貌下ご染筆の色紙(印刷)を入れた写経セットには、写経用紙とともに、鉛筆やボールペンで、手軽になぞり書きできる用紙も同封しています。
ぜひこの機会にご本山への奉納をおすすめいたします。
奉納回向をして御影堂下の特設納経所に一年間お祀りいたします。

写経用紙セット

一セット 一、〇〇〇円

(含 奉納回向料)

宗祖法然上人800回大遠忌記念事業事務局

〒606-8445

京都市左京区永観堂町48

総本山 永観堂禅林寺内

電話 075-761-0007 FAX 075-771-4243

ホームページ <http://www.eikando.or.jp/daionki/>

法然上人と今、すべてのいのち

「愚に還って 念佛すべし」

「念佛を信ぜん人は、たとい一代の法をよくよく学すとも一文不知の愚鈍の身になして……智者のふるまいをせずして、ただ一向に念佛すべし」法然上人は建暦二年（一一二二年）一月二十五日、八十歳にて往生されました。一枚起請文はその二日前の正月二十三日に書かれた御遺訓ともいえるもので、師法然の死が近いことを知った、最後の愛弟子といわれる勢観房源智上人のたつての願いを聞きとどけ、絶対まちがいないと起請文として残されたのであります。念佛を信じようとするものは、釈尊一代の法をどれほど学ぶとも、文字も知らぬ愚かもの

たちかえり、知ったかぶりをするこなく、ただひたすらに念佛を称えなければならぬと申されたのであります。

では上人がおすすすめになる愚に還って申す念佛とはいかなるものでしょうか。

人と生まれた幸せは、

合わす手のある有りがたき

有りがたいとはありえないということ。この世に多くの生きもののいる中で、生まれがたき人界に生まれ、手を合わせ、佛を拝む人となれたことは、前世によほどの善行を積んだことか、ありえない不思議な宿縁といわねばなりません。しかし、愚かなるものは生まれたことの幸せ

さえ忘れ、好きで生まれたわけではないとか、生んでくれとたのんだつもりもないと、一度や二度は父、母に文句をいったものです。

人は愚かしいことのくりかえし、深いつもりで浅いのが知識、浅いつもりで深いのが欲望、厚いつもりで薄いのが人情、薄いつもりで厚いのが面皮、少ないつもりで多いのが愚痴と申します。法然上人は生涯、自ら愚痴の法然房と名乗られました。

それは阿弥陀佛の光明に我が身を照らし、深く自らをかえりみる時、人間の苦悩、悲しみ、愚かさを知り、多くのいのちに生かされて生きるこの私に、生き抜く力強くはげまされる声をきくことになりません。八百年の時を越えて法然上人は、南無阿弥陀佛と心の底からとなえる



二十五菩薩来迎図絵扉から

その人こそ、人中の芬陀利華（白蓮華）とほめたたえておいでになります。

名古屋 櫻誓願寺 近藤玄城